



2月8日、第45回定期中央委員会で、「一律ペア6000円引き上げ要求」等の19春闘方針を決定した。私たちは組織の存亡をかけた、組合員主体の運動を職場からつくり上げ、大量脱退という結成以来最大の危機を招いた18春闘を総括し、12地本の総団結をもつて19春闘勝利に邁進する。

これまで政府が企業に賃上げを促す官製春闘が行われてきたが、「労働分配率」は下落し続けていると言われている。企業の利益が内部留保として積み上がり、一方、賃金など労働者が手にする割合「労働分配率」が、歴史的な水準にあるという指摘だ。経済界における業績の先行き不安や人口減少に身構えていることがその原因とされているが、労働組合側の団結力や組織率の低下も大きく起因する。春闘の歴史の転換点となるであろう19春闘をたたかうにあたり、春闘の三要素を意識したたたかいを構築しなければならない。

労働組合として「組合員と家族の利益を守る」ことが最大の目的である。毎月勤労統計の不正は、労働者の利益にも関わる重大な問題だ。1月28日召集された第198回通常国会は、毎月勤労統計の不正問題で大きく揺れている。この問題は政策統括官の更迭では済まされない。野党は12日、2018年実質賃金の前年比伸び率を巡り、調査対象から除外された日雇い労働者を含めた場合、厚生労働省発表のプラス0.2%からマイナス0.3%に落ち込むとの独自試算を明らかにした。安倍政権の存続基盤である「アベノミクス」の根底が覆され、賃金の伸び率を意図的に高く見せつけてきた「アベノミクス偽装」が満天下に晒される日は近いのではないのか。

政治家らの発言を検証する手法に「ファクトチェック（真偽検証）」がある。毎月勤労統計の不正問題は当然だが、働き方改革も政権主導で進められている今、これまで以上に発言のみならず、文書、データ等、ファクトチェックが重要になる。

19春闘勝利に向けて ウソ・誤魔化しなく堂々とたたかおう!

さらに、今年は統一地方選と参院選が重なる選挙年だ。政治家（候補者）のフェイク発言に、有権者一人ひとりが主体的にチェックすることが求められている。真のファクトチェックをするのは我々自身であり、社会情勢を認識し、現実を直視する姿勢が問われる。

職場の現実には様々な課題が山積している。課題解決への着実な一歩は、JR東労組の組織としての再生にある。組織混乱以降、職場からは「本部方針が伝わらない」「何が起きていくのか分からない」等々の声が聞こえてくる。この声が現在のJR東労組を如実に現し、組織機能が低下していることを真摯に受け止めなければならぬ。また、様々な情報が錯綜していることも組織混乱の要因の一つであろう。自らがファクトチェックをし、ウソ・誤魔化しに惑わされないことが必要だ。

JR総連とJR東労組本部に、53ページもの「大作」が送られてきた。内容は「幼稚」で、主体性のかからも見て取ることができない。また、「国鉄改革」における先達の苦闘を微塵も受け止めてはいない。先達が築き上げた国鉄改革は、三本柱（退職促進・休職制度・派遣制度）を担い、慣れない自動車工場やホテルなどで必死に汗し、働かない鉄道マンという「国鉄労働者悪者論」を払拭した。そして、多くの方が涙を飲んで広域異動に応じた。全ては職場と仕事と生活を守るためであり、ウソ・誤魔化しのたたかいや組織化では、決して成し得なかったことは言うまでもない。

中央本部は、この文書を組織破壊文書と規定した。19春闘のたたかい、組織強化・拡大を妨害するいかなる者も許さない。団結を壊す者と戯れている時間などない。私たちに、否定的現状を冷やかに見ている組合員と、さらには基本的に心通ずるかつての仲間たちがいる。職場の現実から出発し、新たなJR東労組を確立して、組合員・家族の利益を守るために、ひとつひとつの運動を仲間と共に積み上げよう!!

情勢や時代認識を踏まえ 従来の延長線上ではない19春闘のたたかいをしつくり進めよう

加藤書記長 総括答弁(要旨)

春闘方針は定期中央委員会の委員議論によって確認される

発言にもあった通り、この第45回定期中央委員会の大きな課題はJR東労組として『19春闘の方針をいかに確立するか』でした。なぜなら、連合は「賃金の上げ幅という要求から、それぞれの産別の働き方に見合った水準追求へと転換を図るとし、19春闘をその足掛かりとする」と主張しているからです。この主張は、労働組合が同時期に要求を掲げ、相乗効果で経営側に賃金引上げを求めるという1955年以降築いてきた春闘のたたかい方や、その形を変更するとも言える事態です。まさに私たちは、春闘の歴史の転換点に立たされています。また働き方推進関連法が成立し、企業利益の視点に基づいた働き方改革が加速しています。60年以上続いた春闘の終焉のみならず、労働者保護の法律が撤廃され、形骸化される事態にまで直面していると言っても過言ではありません。私たちは、情勢や時代認識をきちんと踏まえ、従来の延長線上ではなく、19春闘をつくり出していかねばなりません。

19春闘のたたかいは、これまで以上に振り返る

17春闘は、申13号「格差ペア」をなくし、全組合員一律定額ベースアップを求める申し入れの団体交渉で、会社は「平成29年度の基本給改定は定額とする」と回答しました。そして基本給改定は一律定額とし、会社からの提案などもあって、管理手当等の見直しを実施してきました。これは「ペアは公平に定額であるべき」と言った私たちの主張を会社が認めたことであり、管理手当等の見直しで職責に応じた処遇のモデルを示したと見るべきです。仮に到達点というなら、17春闘の定額ペアが最も相応しかったのではないのでしょうか。

19春闘方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

しかし、制裁審査中の14名が文責している53ページに及ぶ資料において、組合員の権利が停止されている状態で、19春闘方針を無責任にも打ち出していることは、組織に混乱をもたらすし、団結と統制を乱す行為以外の何ものでもありません。この組織破壊の資料に基づいて、19春闘の方針を掲げている機関が仮にあるとすれば、組織混乱をもたらすことから、組織破壊行為であることを警告します。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

発言された14名の委員 (順不同・敬称略)	
【盛岡】 吉田 昌文、小金 淵 将	【横浜】 折笠 多門、助川 一実
【秋田】 佐藤 智哉	【八王子】 鯉江 一
【仙台】 工藤 克貴	【大宮】 磯 裕二
【水戸】 長嶋 竜一	【長野】 柳澤 直之
【千葉】 門山 俊一郎	【運車】 伊藤 千恵蔵
【東京】 川上 浩一	【きかく】 仁戸田 茂樹

18春闘の大敗北を自覚し 19春闘をたたかいは、これまで以上に振り返る

19春闘の要求については、全地本委員長会議でも方向性を確認してきました。これ以上、組合員を置き去りにした方針を繰り返してはなりません。そのような反省に立ち、新生JR東労組を創り出していかねば組織の信頼回復、強化・拡大は成し遂げられません。改めて、格差ペア永久根絶を目標としたスト戦術を方針上の誤りとし、『18春闘は大敗北』であったこと、決して『大敗北』を喫したこと、決して目を背けることなく、18春闘での労使議論の問題点を明らかにし、19春闘をたたかいは、これまで以上に振り返ります。そして基本原則に立ち返り、JR総連の仲間と共に統一ペア要求を掲げて、統一闘争を展開していきます。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。

19春闘の方針は、18春闘の総括を踏まえ、定期中央委員会の委員議論によって確認されるものです。

「ペア」に関する職責に応じた処遇について、労使の認識が対立している「ペア」を残し、『労使間の紛争状態は継続している』として17春闘を集約しました。